

事務事業名	スポーツ教室運営事業				担当	教育委員会 スポーツ振興課 指導係		
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～			<input type="checkbox"/> 総重 (総合計画重点事業) <input type="checkbox"/> 総新 (総合計画新規事業) <input type="checkbox"/> 戦拡 (総合戦略拡充事業) <input type="checkbox"/> 戦新 (総合戦略新規事業)	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 毎年度実施 (開始年度 昭和52 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)		
施策名	6	生涯スポーツ・レクリエーションの振興						
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間			
法令根拠	スポーツ基本法							
予算科目	1.一般会計	10.教育費	5保健体育費	1保健体育総務費				
予算科目								
事業概要	市民ひとり1スポーツの定着化を目指し、生涯スポーツの推進とスポーツ人口の底辺拡大を図るため、市民各層に対応できるよう、初心者を対象としたスポーツ教室を開講する。 <開講教室>教室終了後、継続的に行ってもらうため、既存の愛好会の紹介を行っている。 ・児童対象：体操、バドミントン、短距離、ドッジボール など ・親子対象：卓球、フットサル、スポーツ、サッカー、少林寺、弓道 など ・成人対象：筋力トレーニング、ノルディックウォーキング、弓道、太極拳、ZUMBA、ヨガ など ・全対象：フライングディスク、グランドゴルフ、ニュースポーツ など							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段 (主な活動)		④ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移						
3年度実績 開催種目 (23/29教室・17/21種目) 6教室中止 (新型コロナウイルス感染拡大防止により) 実施種目の選定・対象者・内容・時期・回数を決定し、講師に依頼する。 参加者の募集。 講師に指導計画、実施内容の報告書の提出。 教室終了後、参加者にアンケート調査を実施。 4年度計画 前年度と同様 開催予定数 (26教室・19種目)		名称	単位	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(見込)
		ア 謝金	千円	888	795	115	676	1,128
		イ 教室数	教室	26	27	6	23	26
		ウ 種目数	種	16	18	6	17	19
		エ 応募者人数 (定員)	人	721	746	160	670	935
		オ						
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		⑤ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) の推移						
市民、児童及び市内勤務者		名称	単位	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(見込)
		ア 市民数	人	79,414	79,324	78,874	78,592	77,635
		イ 児童数	人	4,479	4,480	4,381	4,343	4,230
		ウ						
		エ						
		オ						
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑥ 成果指標 (対象における意図された対象の程度) の推移						
市民ひとり1スポーツの実現を目指すため。		名称	単位	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(見込)
		ア 参加人数	人	439	526	112	473	664
		イ 申込者の割合 (定員に対する申込数)	%	60.9	70.5	70.0	70.6	71.0
		ウ						
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	959	854	115	723	1,281	
	事業費計 (A)	千円	959	854	115	723	1,281	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) スポーツをする機会の提供により、スポーツの日常化が図られ、生涯スポーツの振興に結び付く。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 市民の健康、体力づくり活動に不可欠な生涯スポーツ振興のため妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 対象・意図を見直す必要はない <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある (評価理由) 市民・児童及び市内勤務者を対象にスポーツ教室を開講し、スポーツ人口を増やしている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある (評価理由) 市内小学校へチラシ配布、また市のホームページやおおかテレビ等、広報・メディア等を通じ、スポーツ教室のPRに努め参加者の増加を図っている。また、市民ニーズに対応した種目の検討を行っている。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統廃合や連携はできないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業と統廃合・連携ができる(類似の事務事業名:) <input type="checkbox"/> 類似事業と統廃合・連携できない(類似の事務事業名:) <input type="checkbox"/> 類似事業はない (評価理由) スポーツ部門は、他に類似事業がない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある (評価理由) 事業費の大部分は、講師謝金であり削除余地はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 申込者の割合が低い教室について、効率的なPR及び申込方法を模索・検討し、申込率の向上に努めること。																							